

日本南アジア学会月例懇話会

日時：2023年10月29日（日）14:00-17:00

プログラム：

14:00-15:30 岡山誠子（SOAS 博士課程）「ヒンドゥットゥヴァの陰で：1980年代インドにおけるローカル選挙と国民会議派のマイノリティ候補」

16:00-17:00 中溝和弥（京都大学）「コメント」・質疑応答

会場：東京外国語大学本郷サテライト3階セミナールーム／オンライン（Zoom）

<https://www.tufs.ac.jp/abouttufs/contactus/hongou.html>

Zoom アドレス：お申し込み頂いた方にお送りいたします。

（主催：日本南アジア学会月例懇話会・共催：東京外国語大学南アジア研究センター）

参加ご希望の方は前々日となる**10月27日（金）**までに下記 Google フォームよりお申し込み下さい。

<https://forms.gle/773Pk3NkLkJ1rdLA>

お申し込み頂いた方に前日（10/28）に Zoom リンクをお知らせいたします。対面参加の方も、参加者数把握のため、Google フォームへの入力へのご協力をお願い申し上げます。

報告要旨

現代インドにおける宗教的マイノリティの政治的排除について、これまでの政治研究では、分離選挙区などの措置が導入されなかった憲法制定過程や、インド人民党（BJP）台頭の影響に着目したものが多かった。特に、BJP と国民会議派（会議派）との間で二極分立的な政党システムが定着している州については、多数派であるヒンドゥー有権者のバックラッシュを恐れるあまり、会議派でさえもムスリム候補擁立を控える傾向があると言われる。本研究では BJP 台頭前の 1980 年代、西インドのローカル選挙においてすでに会議派のムスリム候補者数が減少傾向にあったことに着目し、会議派の政党内政治の影響を検証した。具体的には、100 件あまりの政党関係者らとのインタビューや当時の報道記事などを元に、同時期の会議派のトップレベルの派閥抗争などが、ヒンドゥー政治家優位のタテの人間関係を通じて、市議会選挙でのムスリム候補者数の減少に関わっていた可能性を示した。この研究は、インド政治史の転換期でありながら未だに謎の多い 1980 年代について、会議派がインフォーマルに有していたと考えられるマイノリティ排除の構造を草の根から解き明かそうとする。